



牟宇姫ゆかりの地めぐり

2018var.

ウォーキングコース マップ

第7回かくだ牟宇姫ひなまつりタイアップ事業



第3代角田館主・石川宗敬公に嫁いだ牟宇姫（むうひめ）は伊達政宗公の次女です。牟宇姫は江戸時代初期の人というわけです。

現在の角田のまちなみは牟宇姫が生きた時代（初代昭光公から4代宗弘公まで）に基礎がつくられたといわれています。牟宇姫・石川家ゆかりの地をめぐりながら城下町・角田を牟宇姫の気分で歩いてみましょう。

【裏面あり】

★POINT 1 角田城跡

臥牛館あるいは金鶏館とも呼ばれた仙台藩の要害で、白石城、亶理要害と並んで南からの敵に対する防衛の拠点であった。永禄年間、伊達氏の庶流である田手氏が、天正19年には伊達成実が居城した。慶長3年(1598)伊達家御一門石川昭光が一万石(のち加増され最終的には二万一三八〇石)を与えられた志田郡松山より移封、以後明治維新に至るまで石川氏の居城となった。

城は背後に山と谷地、沼を備えた後堅固の平山城で、総廻り567間(約1020m)ある。周囲には堀と土手が回され大手門、蔵、兵具庫、馬屋、南町に通ずる川中島と呼ばれる裏門などがあつた。

現在、中心部は校地となり、堀は埋め立てられて宅地化された。城の表門である「臥牛門」は長泉寺に移築されている。※現在、臥牛門は解体保管中

★POINT 2 八幡神社

慶長3年(1598)石川氏が旧領石川(福島県)より遷座したもので、角田領内の総鎮守であり、幡守神社(八幡神社に併座)、天神社とともに石川氏の氏神であった。

現八幡神社は安政2年(1855)の造営で一間社流造、組物や彫刻は異例の豪華さで、江戸末期の特徴をよく示している。拜殿は仮造営であるが規模が大きく、室内には戦勝祈願の絵馬が多く奉納されている。

2階建ての楼門は慶応2年(1866)の造営で、彫刻が豊富で特に紅梁(こうりょう)や墓股(かえるまた)に力を注いでいる。この楼門とその前にそびえたつ大杉及び「敵国降伏」の額が市の指定文化財になっている。

★POINT 3 台山公園

現在公園に整備された台山には、石川家ゆかりの多くの史跡がある。そのひとつ石川家台山廟には第12代宗光、第13代義光などの墓石22基のほか、長泉寺の傑僧台山童大和尚の墓碑があり市史跡に指定されている。廟所の北に妙安寺跡、西に第4代宗弘の妹正菊姫の菩提供養のために建てられた阿弥陀堂(寛文7年建立)跡、南西山裾に安養寺跡と八幡神社があり、台山一帯は石川家の霊廟地であったことが知られている。廟所の東に石で井桁を組んだ井戸が残っているが、この辺りは義光公が建てた詩歌の席亭「幽月亭」の地であった。幽月は伊達慶邦が義光に贈った雅号といわれている。

★POINT 4 石川家廟所

慶長3年に伊達一門石川昭光が角田に入封して以来、明治維新に至る14代270年間、石川氏は角田邑主として、城下町の建設、産業振興、教育奨励等多方面にわたる基盤の整備をなし、近代角田の基礎を築いた。

石川昭光を初代とする石川家歴代の当主及び親族の廟所は、石川家の菩提寺である長泉寺の供養墓地に四廟一塔(古廟・文山様廟・中之廟・連枝様廟・齡巖様塔)、台山公園内に一廟(台山廟)があり、墓碑は当主親族合わせて93基、殉死者等27基を数える。

石川家は伊達家一門の家格をもつ名家で、墓碑に宝篋院塔用いるなど家格にふさわしい墓碑を建立している。

連枝様廟を除く五廟一塔は関係者により整備され、藩政時代の角田を知る上で貴重な文化財として角田市文化財(史跡)に指定された。

牟宇姫の墓碑は、夫である石川宗敬の墓碑とともに文山様廟にあります。

★POINT 5 長泉寺

高源山長泉寺(曹洞宗)は永享8年(1436)即庵宗覚和尚の開山。慶長3年(1598)石川昭光が角田に移封された時、旧領石川から角田に移したもので、長泉寺の第十世泰然和尚の時代であった。本寺となった角田長泉寺は伊具郡に七ヶ寺のほか、三春・白河・石川・宇多・登米・刈田に27ヶ寺の末寺を持ち、檀徒は7500という大寺であった。本堂は文政十年と明治元年に火災にあっており、現在の建物はその後整備されたものである。

★POINT 6 妙安寺井戸

妙安寺は明暦元年(1655)石川家三代宗敬夫人牟宇姫の生母で、伊達政宗の側室、船岡城主柴田但馬宗義の娘於山の方(おやまのかた)の出家寺として建てられた。政宗没後、於山の方は牟宇姫のはからいで、妙安寺で余生をおくったが、寛文8年(1688)82才で没した。法名は天溪院殿泰窓妙安大姉、墓は長泉寺の石川家古廟にある。

寺は明治維新の頃に廃寺になり井戸のみ残ったが、井桁や流しの石敷が御影石で立派に施工されており、政宗側室御料の格式で営造されたものと思われる。

★POINT 7 郷土資料館

明治大正に建築された氏家家の旧宅を補修整備し資料館としたものである。

氏家家は角田における三資産家の一つに数えられた名家で、戦前は一四一町歩を有する大地主であった。3000㎡の敷地内には、文庫蔵・米蔵の土蔵などが残されている。旧居宅は杉の柱目材を使用、蔵ともに釘は一切使われていない。また、庭に据えられた灯籠や石組、表門は旧角田要害より移築されたものと伝えられている。

昭和60年に資料館として開館、現在館内には民俗資料や考古資料などを展示しているほか、文化活動の拠点として市民に親しまれている。

毎年、2月から3月に「雛人形展」を開催している。その雛人形は、伊達政宗の次女、牟宇姫が石川家に嫁いだ際に持参したものと伝えられているもので、高さ45cm幅66cmのその姿は「武家のお雛様」の貫禄充分である。